

難民 Refugees

Number

23

2002年第4号

UNHCR
ニュース

United Nations
High Commissioner
for Refugees



Exclusive Interview

緒方貞子

前国連難民高等弁務官

Operation Report

スリランカ

**望まれる平和と
人々の再定着**

ザンビア

**多岐にわたる
コンゴ難民への援助**



UNHCR

国連難民高等弁務官事務所

Contents

Operation Report

スリランカ 望まれる平和と 人々の再定着

- 3 スリランカの現場から
5 ザンビア
多岐にわたるコンゴ難民への援助

Exclusive Interview

- 6 緒方貞子 前国連難民高等弁務官

Partnership in Action

- 8 難民キャンプに図書館を
9 UNHCRとJICAとのパートナーシップ

Guest Column

- 10 法務省 入国管理局 難民認定室長 佐々木大介

Domestic Asylum in Japan

- 11 難民法 第3回
12 日本の難民保護 第7回

Staff Profile

- 13 私とUNHCR 第3回

From "Refugees" Magazine

- 14 生きるために不可欠な生活物資 —「薪」
15 環境移民と難民

- 16 HCR協会から

eセンターから

- 17 eセンター2年目を終えるにあたって

Information

- 18 アフガニスタン住宅再建募金
キャンペーン開始
19 世界のUNHCRのニュースから
20 日本の歴史と庇護

Message from the Editor

本号では、緒方貞子・前国連難民高等弁務官が、一時帰国中に独占インタビューに応じ、難民と庇護希望者の問題についてご自身のお考えを語って下さいました。「人間の安全保障」という興味深い観点からみたアフガン情勢にも触れています。緒方氏が日本国内での庇護問題について引き続き強い関心をもっておられることは、UNHCRにとっても非常に大きな励みです。最近、日本政府は庇護状況の改善を発表しましたが、これを機に、日本が国内庇護政策においても「世界の人道問題における先進国」という評判に違わぬ国となることを、緒方氏同様、UNHCRとしても期待しています。

本号では、スリランカにおけるUNHCRの活動報告を紹介しています。同国ではアジア地域でも稀にみる長期紛争が続いていました。新たな和平交渉が今度こそ戦いに終止符を打ち、難民と避難民に持続可能な解決策をもたらす前提条件が整うことが望めます。同様に、アフガニスタンでは、緒方氏も指摘されるように、ようやく芽生えはじめた平和を確立するために、人道機関や開発機関による、タイムリーかつ十分に調整のとれた介入が求められる新たな局面を迎えています。

お知らせ

UNHCR日本・韓国地域事務所はホームページを開設しています。ぜひご活用下さい。資料紹介もあり、ホームページから電子メールでのお申し込みも可能です。

<http://www.unhcr.or.jp>

資料に関するお問い合わせ先

UNHCR(ユー・エヌ・エイチ・シー・アール)
日本・韓国地域事務所 広報室
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70
UN/ハウス 国連大学ビル 6階
TEL 03-3499-2310(広報室直通)
FAX 03-3499-2273

その他のお問い合わせ先

TEL 03-3499-2011(代表)

UNHCRニュース

「難民 Refugees」No.23 2002年11月

発行人 カシディス・ロチャナコン
編集 浅羽俊一郎、箱崎律香、大川宝作
野中聖子、目沢寿美子
デザイン 鈴木俊秀
制作 (株)トライ

UNHCRの援助活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付は郵便振替にてお願いいたします。
口座番号 00140-6-569575
加入者名 HCR協会
(手数料加入者負担)

— 表紙写真 — 過去の記録写真から

◀メイン(モノクロ) ザンビアのキャンプで生活するモザンビーク難民(1988年)。UNHCR/A.Hollmann

上・右 緒方貞子 前国連難民高等弁務官。UNHCR/E.Brissaud

上・左 スリランカ国内避難民の約75%は女性と子ども達。スリランカ北部のパブニヤ。©UNHCR/M.Kobayashi

